

研究参加者募集

『下肢拳上負荷前後の頸動脈硬さ指標の日内変動と再現性の検討』
に協力してくださる方を募集しています

動脈硬化の最早期に生じる異常である血管内皮機能障害を検出する手法として、血流依存性血管拡張反応（FMD）という検査法が知られています。これは5分間特殊な血圧計で前腕（手首の近く）を駆血した後にそれを解放することで、上腕部（二の腕）を通る血流を急に増加させた際に、どれだけ上腕動脈が拡張するかを計測する方法です。この手法は様々な制約のために臨床現場には普及していません。一方、頸動脈超音波検査は、動脈硬化の検索に既に広く用いられています。

我々はこれまでに、下肢に流れる血流量を減少させて下肢以外の循環血液量を増加させる下肢拳上負荷と頸動脈超音波を組み合わせ、下肢拳上負荷前後のstiffness parameter β の変化が、FMDに近い指標となる可能性を見出しました。本研究では下肢拳上負荷前後のstiffness parameter β とFMDとの間で、日内変動が同様の傾向を示すかどうかを検討するとともに、下肢拳上負荷前後のstiffness parameter β の検査者間および検査者内再現性を検討したいと考えています。

概 要

【対象となる方】

18歳以上の方

【調査項目】

- ① 年齢、身長、体重、血圧、腹囲
 - ② FMD
 - ③ 安静時と足上げ負荷時の頸動脈エコーによる
頸動脈血管径変化およびstiffness parameter β
- ※②と③の項目については、朝、昼、夕の3時点で行います。

【所要時間】 朝・昼：約45分程度

夕：約1時間程度

【謝礼】 3,000円

応募方法

研究にご協力いただける方は、以下の研究責任者のメールアドレス宛にメールをお送りください。その際、件名に「研究協力者希望」と記載ください。

【研究責任者】

岡田一範

日本医療大学保健医療学部

臨床検査学科

okazunori@jhu.ac.jp